

平成15年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 マダラ

学名 *Gadus macrocephalus*

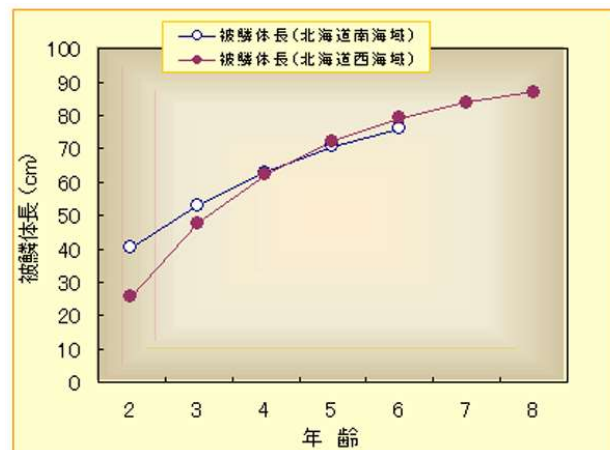
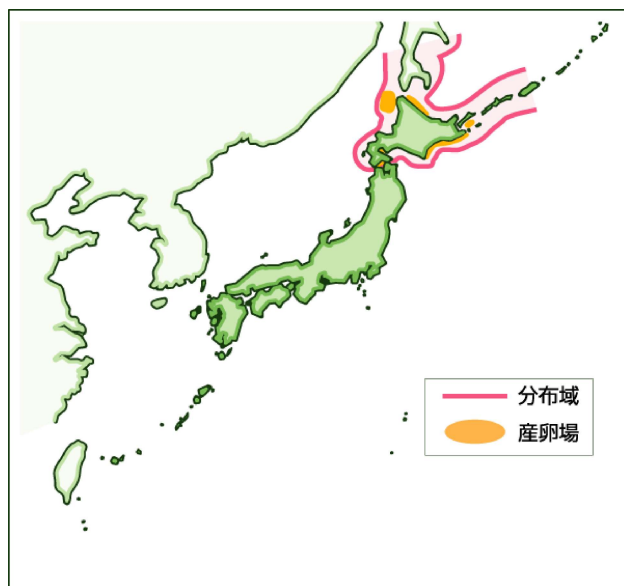
系群名 北海道

担当水研 北海道区水産研究所



生物学的特徴

寿命： 不明
成熟開始年齢： 雌4歳、雄3歳（北海道南海域）
産卵期・産卵場： 冬季（12～3月）、分布域全体
索餌期・索餌場： 不明
食性： 幼稚魚期は主にカイアシ類、底生生活に入ってからからは主に魚類、甲殻類、頭足類、貝類
捕食者： 海獣類

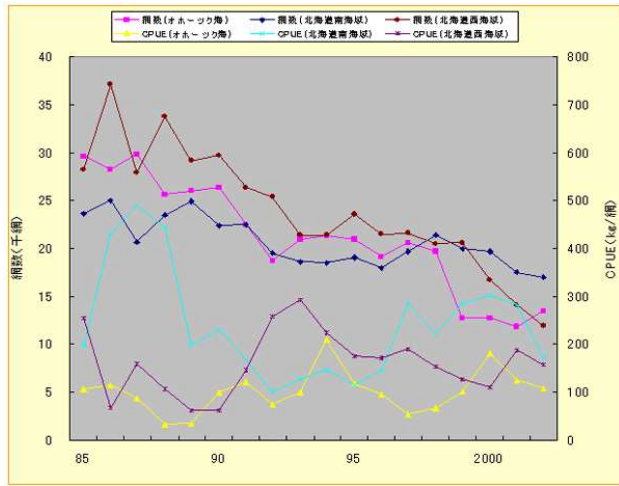
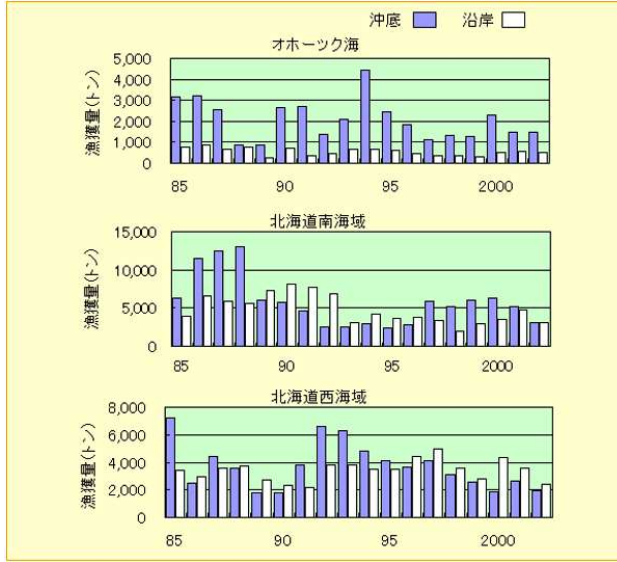


漁業の特徴

マダラは、北海道周辺において、沖合底びき網（沖底）、刺し網、はえなわ、定置網ほか多くの漁業によって漁獲されている。漁獲はほぼ周年あるが、主漁期は冬季である。

漁獲の動向

オホーツク海における沖底と沿岸漁業の漁獲量は、ともに北海道周辺の他の2海域(北海道南、北海道西)に比べれば少ない。2002年の漁獲量は、沖底1,462トン、沿岸漁業496トンで、ともに2001年とほぼ同水準にあった。北海道南海域における沖底の漁獲量は、2001年以降2年連続で減少し、2002年には3,149トンとなった。一方、沿岸漁業の漁獲量は、1999～2001年に増加したが、2002年には減少し、3,040トンとなった。北海道西海域における沖底の漁獲量は、1993年以降減少傾向にあり、2002年には1,906トンとなった。一方、沿岸漁業の漁獲量は、2001年以降2年連続で減少し、2002年には2,438トンとなった。



資源評価法

沖底の漁獲努力量は、全ての海域において1986年以降減少傾向にある。一方、沿岸漁業の漁獲努力量に関する情報は得られていない。そのため、沖底のCPUEの経年変化から資源状態を判断した。

資源状態

資源水準は、過去18年間（1985～2002年）における2002年の沖底のCPUEの順位から、資源動向は、過去5年間（1998～2002年）における沖底のCPUEの経年変化から判断した。その結果、オホーツク海、北海道南海域および北海道西海域の資源は、すべて中位で横ばいと判断された。そのため、全海域を合わせた資源全体としても、中位で横ばいと判断した。



管理方策

資源状態が中位で横ばいにあるため、現在よりも漁獲を増やさなければ、現在の資源水準を維持できると考えられる。そのため、直近年である2002年の漁獲量をABClimitとし、ABClimitに安全率である0.8を乗じた値をABCtargetとした。

	2004年ABC	管理基準	F 値	漁獲割合
A B C limit	12千トン	Ccurrent	-	-
A B C target	10千トン	0.8ABClimit	-	-

資源評価のまとめ

- 沖底のCPUEの経年変化から資源状態を判断
- 北海道周辺の3海域の資源はすべて中位で横ばい
- 資源全体としても中位で横ばい

資源管理方策のまとめ

- 現在の資源水準を維持するため、現在の漁獲を維持

- ABClimitは2002年の漁獲量、ABCtarget はABClimitの0.8倍
-

資源評価は毎年更新されます。